

2012年度 学校評価報告書 (京都聖母学院中学校・高等学校)

学 校 目 標	カトリックの人間観・世界観にもとづく教育を通して、社会に貢献できる人間を育成する。
---------	---

重 点 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. カトリックの精神に則った情操教育を行い、建学の精神の具現化を目指す。 2. コースごとの特性に合わせた柔軟なカリキュラムにより、学力の向上に取り組む。 3. 学内外との連携を深め、本校の教育活動の幅を広げ、認知を高める。
---------	---

学 校 自 己 評 価			
目 標		評 価	
番号	重点目標	具体的方策	取組の成果
1	カトリックの精神に則った情操教育を行い、建学の精神の具現化を目指す。	<ol style="list-style-type: none"> ① 年間の福祉行事や福祉活動を通して、「奉仕」の心を育てる。さらに他者に役立つことで生かされている自身の存在意義を見出す。 ② 宗教行事以外での学校行事において、カトリックの精神を反映させた取り組みを行う。 ③ 祈りの時間を大切に、深い内省と心の成長の機会を持つ。 	<ol style="list-style-type: none"> ① 「敬老のつどい」においては、近所のお年寄りをまねき、催し物を行った。戦争体験世代の話を聞くことで今の平和への感謝と自分の存在価値を見つめ直すことができた。 中学2年生は脊髄の病気で3歳から車いすで生活している高校3年生市川さんの体験を聞き、「人の心が設備のバリアフリーに追いついていない」ことを考えた。 ② 部活動や福祉推進委員会を中心に募金活動を行い、他者のために自らの時間と労力を使うことで、生かされている自身の喜びを見出した。 ③ 朝の祈りの前の放送や、沈黙をしっかりと行うことで厳かな気持ちで祈りをすることができた。
2	コースごとの特性に合わせた柔軟なカリキュラムにより、学力の向上に取り組む。	<ol style="list-style-type: none"> ① コースごとに、より特徴のある授業を行う。 ② 教師間の授業参観を行い、客観的な授業評価を行う。 ③ 高校1類の特別授業の充実を行い、生徒の興味関心の幅を広げ、職業観、人生観を養う。 	<ol style="list-style-type: none"> ① 各教科の単元時間数配分を見直し、効率的かつ効果的な学習を行うように改善した。 ② 教師間の授業参観を積極的に行い、授業力向上に努めた。他教科の教師も参観を行うことで、横断的に教科指導を行う視野が生まれた。 ③ 秘書検定講座を開始し、外部講師による指導を通して女性の輝きながら生きる姿を学んだ。 きもの着付け講座や日本舞踊基礎講座を通して楽しみながら日本文化に興味をもつことができた。
3	学内外との連携を深め、本校の教育活動の幅を広げ、認知を高める。	<ol style="list-style-type: none"> ① 全学的な視野のもと、学院幼稚園・学院小学校との連携と交流を深める。 ② 全学的な視野のもと学習サポートを行い、本校の教育活動の認知度を高める。 ③ 第11回 京都府私立中学校高等学校教育研究大会の開催校として、京都府全体から本校へ来校いただく機会を持ち、清潔で明るい校舎施設や、歴史ある校風を知っていただく。 	<ol style="list-style-type: none"> ① お誕生会のかみしばいに出演することにより、園児とその保護者に本校の雰囲気伝えた。 聖母音楽祭の開催やクラブ体験会を通して、学院小学校の児童との交流を図り、本校の様子を伝えた。 「学院中高だより」を学院小学校向けに発行し、本校の教育活動の様子を伝えた。 ② 教育講演会を小学校3年生と4年生対象にそれぞれ行い、中学での成長をふまえた学習方法や論理的な学びのしくみについて伝えた。その際に小学校の保護者と個別相談を受ける機会を持つことができた。 ③ 事前に、新聞などのメディアを通じての広報があり、講演会には約250名が参加。午後からの11分科会も多方面から多数の参加があった。

学 校 関 係 者 評 価
学校関係者からの意見・要望・評価等
<p>生徒、保護者、教員に評価アンケートを行った。 生徒対象…学校生活評価 授業評価 保護者対象…学校生活評価 授業評価 以下に評価と意見を集約する。</p> <p>①保護者対象アンケート 昨年度より大幅な変動はないものの、項目によっては特定の学年について評価の低いものがある。「教員は子供の意見や悩みをよく聞いてくれると思う。」については中1・中2の満足度が他学年より低かった。 また部活動においても、中2・中3の満足度が昨年より減少しており、活動意欲と活動内容や指導がかみ合っていないクラブがあると思われる。 授業評価については、各項目概ね肯定的な回答になった。実際の授業を参観いただいた限りでは、安心感を持っていただいていたのではないかと推察できる。</p> <p>②生徒対象アンケート 「先生は、生徒の意見や悩みをよく聞いてくれる」については保護者アンケートと相関関係がみられ、中2の回答が低かった。それに対して、「努力したことを認めてくれる」については昨年より肯定的な評価の増加傾向にあり、改善がなされている教科が多くなったと思われる。</p> <p>③教員対象アンケート 「聖母の教職員であることへの誇り」について、後退が見られる。教員の世代交代のなか、長く務める教員が「聖母の伝統的な教育のありかた」を次の世代に伝えていく必要がありそうだ。 「学級だより」などについては、HPの「Seibo Life」が頻繁に更新され、学内外に教育活動が発信されていることもあり、デジタルメディアとの棲み分けができる独自の学級通信などの発信形態を模索している担当が多く、過渡期にあると思われる。</p>